



Ski Association of Hokkaido Newsletter No 17 30/June 2023  
**北海道スキー連盟だより第17号**

公益財団法人北海道スキー連盟 〒062-0904 札幌市豊平区豊平4条5丁目1-18

令和5年度は、コロナ禍の中で前半は思うような活動ができない状態が続きましたが、徐々に感染状況も改善され、今年5月にはコロナ感染症も5類に位置付けられ平常な生活に近づきました。2022～2023シーズンの連盟各事業は、悪天候以外ほぼ実施ができたところです。大会等実施運営された地域の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

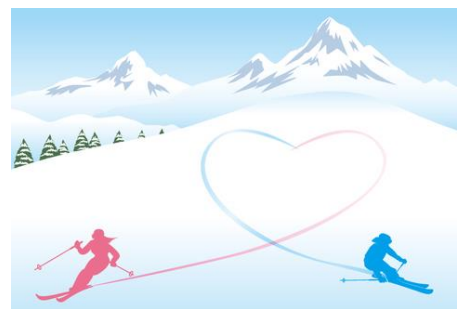
令和5年度は、理事の改選期にあたり、令和4年9月10日に第一回、10月1日に第二回の役員（理事）候補者選考会議を開催し、役員候補者が選考推薦されました。その後令和4年10月15日開催の定時評議員会に推薦された役員候補者が報告され評議員の投票により定款第21条第1項で規定された理事総数25名が選出されました。

今回の改選では、2名の理事が退任され、新たに佐々木貴幸氏、若松章彦氏が理事に就任されました。

その後、理事会が開催され選出された理事の業務分担が次のように決定し、またスノーボード競技担当の上島しのぶ氏が副会長に就任しました。

**令和4年10月15日以降の執行体制が次のように決定しました。**

代表理事	会 長	勝 木 紀 昭	理 事	競技本部長	尾 形 修
理 事	副 会 長	原 田 雅 彦	〃	〃 副本部長	正 木 啓 三
〃	〃	松 岡 尚 幸	〃	〃 副本部長	押 切 敬 司
〃	〃	吉 村 良 一	〃	競 技 担 当	逸 見 佳 代
〃	〃	上 島 しのぶ	〃	〃	祐 川 亮
〃	専務 理事	二 木 一 重	〃	〃	若 松 章 彦
〃	総務本部長	北島(川端)絵美			
	〃 副本部長	吉 田 康 弘			
〃	〃 副本部長	佐々木 貴 幸	監 事		登 尾 俊 治
〃	総務 担当	齊 藤 智 治	〃		小 高 咲
〃	〃	遠 藤 正	〃		釜 井 裕 介
〃	〃	石 川 園 代			
〃	教育本部長	佐 藤 秀 志			
〃	〃 副本部長	土 田 茂			
〃	〃 副本部長	阿 部 哲 郎			
〃	教育 担当	佐々木 一 仁			
〃	〃	山 本 博 之			
〃	〃	出 口 朝 彦			
〃	〃	脇坂 こずえ			



# いわて八幡平 白銀国体 2023～白銀に 映えるみんなの 夢・未来

2023年2月17日（金曜）～2月20日（日曜）までの4日間岩手県八幡平を拠点として開催された。北海道選手団は、原田雅彦団長を筆頭に、総務1名、競技種目の監督、コーチ13名、選手63名計76名が天皇杯獲得を目指して参加しました。

結果総合4連覇という快挙を達成、特にクロカンチームの頑張りが光りました。

旗手を務めた葛西紀明選手は、今回は意外にも国体初参加でした。



## クロスカンントリー競技

- ・成年男子A 10km クラシカル 大田喜日向（自衛隊体育学校） 1位  
松村亜斗夢（JR北海道） 4位
- ・成年男子B 10km クラシカル 児玉宗史（JR北海道） 5位
- ・成年男子C 5km クラシカル 中島徹也（第3即応機動連隊） 3位  
成田大助（2戦車上富良野） 6位
- ・少年男子 10km クラシカル 小上楓真（北海道恵庭南高校） 2位  
今関新太郎（北海道おといねっふ美術工芸高校） 8位
- ・成年女子A 5km クラシカル 栃谷和（北海道おといねっふ美術工芸高校） 5位  
栃谷天寧（北海道おといねっふ美術工芸高校） 7位
- ・成年女子B 5km クラシカル 前田沙理（日本バイアスロン連盟） 4位
- ・少年女子 5km クラシカル 小池梓（北海道富良野高校） 3位  
岩佐奏葉（北海道留萌高校） 5位
- ・成年男子リレー 10km×4人 大田喜日向 松村亜斗夢 蜂須賀優駿 児玉宗史 1位
- ・少年男子リレー 10km×4人 神幸太郎 小上楓真 今関新太郎 前田航希 4位
- ・女子リレー 5km×4人 栃谷和 栃谷天寧 岩佐奏葉 小池梓 3位



## スペシャルジャンプ競技

- ・成年男子A 渡部陸太（東京美装興業） 1位 竹花大松（土屋ホーム） 3位  
岩佐勇研（東京美装興業） 4位
- ・成年男子B 葛西紀明（土屋ホーム） 5位 原田侑武（雪印メグミルク） 6位  
栃本翔平（雪印メグミルク） 8位
- ・少年男子 坂野旭飛（下川商業高校） 1位 杉山律太（下川商業高校） 3位  
中村正幹（東海大付属高校） 5位 西田蓮太郎（下川商業高校） 7位  
森 恢晟（東海大付属高校） 8位



## ノルディックコンバインド競技

- ・少年男子 森 恢晟（東海大付属高校） 2位



## ジャンアントスラローム競技

- ・成年男子A 佐藤竜馬（ブレイン株式会社） 6位
- ・成年男子B 新 賢範（ブレイン株式会社） 2位 小林大郁（北海道銀行） 8位
- ・成年男子C 武田 竜（ブレイン株式会社） 1位
- ・少年男子 直江優作（小樽双葉高校） 1位
- ・成年女子A 畠中悠生乃（日本体育大学） 4位
- ・成年女子B 石橋未樹（いちたかカズワン） 1位
- ・少年女子 増田さくら（旭川明成高校） 1位



## 理事就任のご挨拶

事務局常勤 総務本部担当理事 **佐々木 貴幸**

令和4年10月に北海道スキー連盟の理事に就任しました佐々木貴幸と申します。令和4年8月から事務局職員としてまだまだ不慣れではありますが円滑な連盟運営にできる限り力を尽くしてきました。この度、理事に就任する事になり北海道スキー連盟の更なる発展に向けて一生懸命取り組む所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

私はスキー・スノーボード等の経験はほとんどありませんが、小学校4年生から野球を始め中学・高等学校・大学・社会人野球選手として28歳まで現役を続けさせて頂きました。現在、事務局職員として主に競技本部の担当をしておりますが、私自身が野球で経験した事で何か北海道スキー連盟に貢献できることがあるのではないかと日々考えております。

野球少年団等で指導もしてきましたが、近年の若い競技選手個々の競技能力については、どの競技団体においても基礎体力や基礎技術が過去のデータよりも低い傾向にあります。選手育成強化において明確なビジョンを定め、各種目や個人で短期・中期・長期の目標を一つずつクリアしていく事が不可欠だと思います。また、選手個々の競技能力を高める為には、メンタル・テクニック・フィジカル等の強化を医科学やエビデンスに基づいた育成指導・強化・分析・目標設定が必須であるのはどの競技であっても同じではないかと感じています。加盟団体を始めとして地域のクラブ・チームなどと全日本スキー連盟及び北海道スキー連盟とそれぞれの役割など連携を図りながら、当連盟の強化指定選手を全日本スキー連盟へ一人でも多く輩出することが重要であると考えております。私はまだまだスキー・スノーボードについては勉強不足でありこれからも北海道スキー連盟の長い歴史をしっかりと学び、諸先輩や加盟団体の皆様からご指導を賜りながらスキー・スノーボードを通して地域社会へ貢献及びスキー・スノーボードの普及に尽力していきたいと考えております。皆様のご指導宜しくお願い致します。





## 理事就任のご挨拶

競技本部担当理事 **若松 章彦**

この度、北海道スキー連盟の理事を拝命いたしました若松と申します。私は現在、国内大会における、ジャンプ・コンバインド競技の大会運営に微力ながら関わらせていただいております。

競技運営に携わっていただいている先輩諸兄の皆様方より様々なご指導を賜りながら尽力しているところです。

北海道スキー連盟として、今後の北海道へのメジャー大会誘致など、様々な活動が活発化している大切な時期に理事にご選任いただき、身の引き締まる思いです。与えていただいた職責を全うできるよう尽力したいと考えておりますが、至らぬ点が多々生じることとしますので、皆様方からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

職務上においても、スキー場運営に携わっていることから、公私ともにスキー・スノーボードなどのスノースポーツに関わらせていただいております。特にスノースポーツの活性化については、国内需要の喚起や、インバウンド需要の拡大など、多岐にわたる諸問題を解決し、北海道への来外客の増加に向けて取り組んでいるところです。欧米豪のバックカントリー需要の拡大による安全対策などにも取り組んでおりますが、思うような解決策を見出すことが難しく、試行錯誤を繰り返している状況です。そんな中、今後の北海道へのスノースポーツに対する国内・インバウンドの需要は拡大していく傾向が継続している環境下において、受入れ地域への経済効果を如何にもたらすことができるのかという課題にも取り組んでいるところです。地球温暖化による氷河の減少・雪不足などにより、欧米豪では日本に注目が集まっているのが現状です。その中でも安定した降雪量と良質なパウダースノーを有する北海道に特に注目が集まっている状況で、スキー場連携や情報の共有を積極的に行うことで、北海道ブランドの強化を図り、北海道におけるスノースポーツの発展の一助となれるよう取り組んでいくことができると考えております。このような、スノースポーツを通じた経済の活性化や社会生活への貢献に結び付けていくために、公私ともに関わらせていただけることを幸いに思っているところです。

北海道スキー連盟が積み重ねてきた長い歴史と功績を汚すことなく関わらせていただくために、会長をはじめとした諸先輩方からのご指導を賜りながら、ジャンプ・コンバインドと職務上におけるスキー場運営において、競技力の向上や人材育成と経済効果に結び付きうるよう努力して参りたいと考えております。今後とも、よろしくようお願い申し上げます。



## 地域の子どもは地域で育てる

公益財団法人北海道スポーツ協会  
クラブアドバイザー 熊耳 雅美

私は現在、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）のアドバイザーとして道内各地をまわり総合型クラブ設立のサポートや運営のアドバイスをさせて頂いています。総合型クラブは民間のフィットネスクラブ等とは異なり、地域住民が主体となって運営している非営利組織です。幅広い年齢層の方々を対象に様々なスポーツ教室を開催したり、交流事業を行うだけではなく、スポーツを通じて地域の課題解決に積極的に取り組むことが総合型クラブの最大のミッションです。そのため、行政と連携し地域の課題を共有した中で、自分たちにできることを全力で取り組んでいくのが活動の核となります。

私が以前勤めていた総合型クラブのある町には、当時学童保育などの整備がなく、また、少年団活動も3年生以上でなければ加入することができず、小さな子どもたちの居場所がないという地域の課題がありました。そこで、クラブの運営委員の方々と相談し、1・2年生を対象とした放課後の事業を行うことにしました。内容は30分間の学習タイムと、1時間の運動タイム。関わるスタッフは私を含め、運動「指導」の専門家でもなければ、小学校教諭でもありません。そのため、学習や運動を「指導」するのではなく、地域のおばちゃん、お姉ちゃんとして子どもたちを「見守り」「支える」という視点でこの事業に取り組み保護者と共に子どもたちの成長のお手伝いをさせて頂きました。

現在、子どもたちを取り巻くスポーツ・文化環境の大きな課題として「部活動の地域移行」が挙げられます。ここでも「地域の力」が求められています。「部活」「指導」のキーワードに注目してしまうと「学校」「先生」となりがちですが、「スポーツ・文化環境」「見守り・支援」と考えるとどうでしょうか。「部活動の地域移行」で一番重要なのは、子どもたちのスポーツ・文化環境を永続的に整えていくには何を変えていかなければならないのかということです。学校の先生も、行政職員も、指導者も、保護者も全員地域住民の一人です。今こそ手を取り合って、地域の子どもたちを地域の大人でしっかりと見守り支えられる仕組みづくりが求められているのではないのでしょうか？

昨年度、「Snow Kidz」事業をご提案頂き、道内各地の総合型クラブと道スキー連盟が連携して取り組めたことは、まさに地域の大人が手を取り合い子どもたちに様々な体験機会を提供する素晴らしい取り組みであったと感じています。この事業を通じて興味を持った子どもたちが、それぞれの志向でウィンタースポーツに親しむ姿をこれからも見守り続けていきたいです。



## 北海道スキーの未来に向けて

北海道大学観光学高等研究センター

客員教授 遠藤 正

1980年から90年代前半にかけて日本全国に爆発的なスキーブームが訪れました。国内のスキー観光客はピークを迎え、北海道にも本州などから沢山のスキー客が訪れました。この時のスキー場やスキー学校などは、日々訪れるお客様への対応に忙殺され、中長期的なマーケティングというのは、ある意味あまり必要のない時代でした。ところが、バブル経済の崩壊とともに、国内のスキー観光を取り巻く環境は一気に悪化し、全国的にスキー離れが起こり、スキー場にはかつてのようなお客様を見ることはほとんど無くなりました。ところが、2000年前半に入ると、ニセコ地域に良質なパウダースノーを求める海外のスキー観光客が登場し始め、今日に至るのは衆知の通りです。その後、こうした海外スキーヤーの数は右肩上がりに増え、ここ数年は新型コロナウイルスによる渡航制限から激減しましたが、昨シーズンからは徐々にインバウンド（海外観光客）が戻り、来シーズンは更なる回復が見込まれています。ここで、北海道のスキー業界の中長期的なことを少しだけ考えてみましょう。バブル経済以降の国内スキー人口の減少、リーマンショックや新型コロナウイルスの影響による海外スキー客の減少など、ここ数十年の間に取巻く環境は変動しています。こうした中、どの時代も地域のスキー場を支えてきたのは、地域のお客様であることは疑う余地はありません。いざ何かというリスクを考えた時、地域のスキーヤーを如何に維持し、生み出していくかという発想が今後欠かせません。新型コロナウイルスが広がる中、スキーは屋外で三密を避けられるスポーツとして再評価され、スキー場には多くの地域のお客様や家族連れが戻ってきています。今後、こうした方々が来年もその先もスキー場に再び来ていただけるよう、北海道のスキー関係者が一丸となって、地域のお客様がリピートするような取組みが必要ではないでしょうか。同時にインバウンドの対策も求められる時代です。賑わいを取り戻しつつある北海道スキーの将来を左右する重要な数シーズンが始まります。地域のお客様とインバウンドのバランスを考え、それぞれの地域の最適解が見つかることを願ってやみません。



## 事務局だより

～そろそろ船を降りる準備を始めましょうか～

どこからかそんな声が聞こえた気がする。

昨年「連盟だより16号」にて道連事務局の船旅について、その後の航海がどんな状況になっているか・・・興味がありますか？

昨年8月予期もせず、事務局に佐々木貴幸さんが新し

く仲間に加わった。社会人野球でピッチャーをやっていた経歴の頼もしいお兄さんです。

そして、10月に役員改選という風が吹き、この事務局の船は大きく舵をきることとなった。操舵手も変更になり、それぞれの役割で安全に航海が続けられるのだろうか内心とても不安だった・・・けど 船は大型になればなるほど操作するうえで、たくさんの人員の協力が不可欠であろうが、広い海原でのアクシデントももう恐れることはないかもしれない。

さて、皆さんはこの船の「航海士」です。船の安全を守ることと、船の位置を特定し安全な航路を進んでいるか確認することがとても重要だと思います。

そして、私は今までその船のクルーとして、大シケの海で暴風や高波で浸水し、沈みそうになっても、手漕ぎで水をエッチラ・オッチラ掻いて凌いできました。

ただそれは今思えばどんなに大変でも、とても楽しくやりがいのある作業だったのだと思います。なぜなら手漕ぎの水掻きは色々な人達が常に協力し、惜しみなく力を貸してくれたからでしょう。

時代が変わり、気がつけばもう水を掻いてくれるような人は少なくなったね。

だから「もうそろそろいいじゃない」ってどこからか私には声が聞こえたのかもしれない。

最近、そんな私にとっても嬉しいことを言ってくれた人がいました。

教育本部のある方が、「怖い姐さん（私のこと）がいつも目を光らせ、煩い事を言ってくれていたから、俺たちは安心して苦手な事務作業もやれていたのだ」とその言葉だけで十分なハナムケではないでしょうか。さて、今シーズンもまもなく終わり新たな船旅が始まります。

積荷もドーンと重くなり耐荷重がどれほどなのかわからないまま動き始めます。

Over weightにならないように気をつけなければ・・・沈む～

私は卑怯者なのでそ～っとゴムボートを用意し、プカプカとのんびり浮かんでいるかな～



田中郁子

### 事務局からのお知らせ

◎新年度から、事務局体制が変わります。

田中事務局長に代わり佐々木理事が事務局長に就任し、二木専務、服部職員、川本臨時職員の5名体制で連盟事務局を担います。今後とも引き続きよろしくお願ひします。

今後情報を充実させていきますので道連ホームページをご活用ください。

URL <https://www.ski-hokkaido.jp/>

